



インパクト
コンソーシアム

第9回運営委員会 資料

2026年9月8日

事務局

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 会員向けアンケート結果概要（別紙参照）

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザーパネル）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 会員向けアンケート結果概要（別紙参照）

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザーパネル）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

総会決議の結果

- インパクトコンソーシアム第3回総会にて、会長・副会長・運営委員の選任（第1号・2号・3号議案）について諮ったところ、承認された。

第1号・2号・3号議案関連 会長・副会長・運営委員の選任

（第一号議案）以下の者を、第3期のインパクトコンソーシアム会長として選任してよいか、伺います。

会長候補者

- 水口 剛 高崎経済大学 学長

（第二号議案）以下の者を、第3期のインパクトコンソーシアム副会長として選任してよいか、伺います。

副会長候補者

- 渋谷 健 GSG Impact JAPAN 委員長
□ 長谷川 知子 日本経済団体連合会 専務理事
□ 黒澤 立也 全国銀行協会 企画委員長

（第三号議案）以下の者を、第3期のインパクトコンソーシアム運営委員として選任してよいか、伺います。

運営委員候補者

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| □ 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久 | □ みずほフィナンシャルグループ 執行役員 池田 周平 |
| □ 経済同友会 政策調査部 部長 宮崎 喜久代 | □ 静岡銀行 取締役常務執行役員 梅原 弘充※ |
| □ 日本商工会議所 企画調査部長 山内 清行 | □ 第一生命保険 常務執行役員 重本 和之 |
| □ インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか | □ 大和証券 常務執行役員 木地 佳彦 |
| □ GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌 | □ 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 田島 聡一 |
| □ スタートアップ都市推進協議会 副会長 高島 宗一郎 | □ 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和 |
| | □ りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔 |

※ 令和8年6月19日、株主総会及び取締役会にて、取締役専務執行役員に選任予定

(参考) コンソーシアムについて

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組を支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場として、23年11月、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。

会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

副会長

- GSG Impact JAPAN 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 専務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 黒澤 立也

運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 藤井 大樹※1
- 日本商工会議所 企画調査部長 山内 清行
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 副会長 高島 宗一郎
- みずほフィナンシャルグループ 執行役員 池田 周平
- 静岡銀行 取締役専務執行役員 梅原 弘充※2
- 日本生命保険 執行役員 河崎 圭助※3
- 大和証券 常務執行役員 木地 佳彦
- 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 和田 雅彦※4
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※1 年次体制変更に伴い、宮崎 喜久代氏から交代

※2 協会の年次体制変更に伴い、横浜銀行 代表取締役副頭取 小野寺 伸夫氏から交代

※3 協会の年次体制変更に伴い、第一生命保険 常務執行役員 重本 和之氏から交代

※4 年次体制変更に伴い、成清 正和氏から交代

会員の状況

- インパクトコンソーシアムの会員数は、2026年8月末時点で、501（議決権を持つ法人会員は414）となっている。
- 第7回運営委員会から会員数は73増加した（主に事業会社、支援機関等、個人の会員）。

会員の状況

カテゴリ	具体例	2026年8月末時点
事業会社	（スタートアップや地域企業、上場企業等）	1 7 4
金融機関等	（銀行、保険会社、証券会社、資産運用会社等）	1 1 5
支援機関等	（シンクタンク、財団、非営利活動法人等）	8 5
業界団体・協議会等	（経済団体、証券団体等）	1 8
その他 （自治体・大学等）	（市役所、学校法人等）	2 2
個人		8 7
合計		5 0 1

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 会員向けアンケート結果概要（別紙参照）

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

コンソーシアム全体の方針

- 効果的・効率的な運営に留意しつつ、インパクトを創出する企業・投資家等の担い手の更なる拡大やコンソーシアムにおける議論の更なる活性化を図っていく。

- コンソーシアムの会員数は着実に増加しており、インパクトを創出する事業・投資の認知度や関心が高まりつつあるが、一層の関心喚起や民間事業者・投資家等における創意工夫を促すよう、各分科会においては、座長・副座長を中心に、事業者や金融機関等の取組内容や事例などを幅広く共有しながら、実践に繋がられるような議論を進める。
- 各分科会のテーマは引き続き議論されることが望ましいことから、来年度も4分科会体制を維持しつつ、より有意な議論を行うべく、分科会間で関連性のある議論については合同分科会やアドバイザリー委員会の開催を含め、各分科会間での連携を行い、コンソーシアムにおける議論の更なる活性化を図っていく。
- 引き続き効率的・効果的な運営を行う観点から、事務局とオーガナイズングデスクの更なる連携・協働の推進を図るほか、今後の持続可能な運営体制に向けたコンソーシアムの在り方について検討する。

第3期スケジュールのイメージ

- 各分科会の具体的内容やスケジュールは、分科会ごとに主体的・柔軟に検討・対応することとしつつ、議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告いただき、今後の対応につなげていくことが考えられるのではないかと。

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

		2026						2027					
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
総会													
運営委員会等		キックオフ 報告											
分 科 会	データ・指標	「インパクト指標集」の充実、インパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築に資する実証事業、及び、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に関わる議論											
	市場調査・形成	合同分科会を実施予定 インパクトと企業価値の接続・企業経営への組み込みの実践例、インパクト投資市場の拡大に向けた議論、システムチェンジ投資の実践的アプローチ											
	地域・実践	事例集の普及活動を通じて、地域での事例拡大に取り組み、より実践的な目線から有用な事例を深掘りする											
	官民連携促進	「実践ガイド」を活用した自治体とスタートアップの連携事例創出											

1. データ・指標分科会

テーマ：インパクト企業及び投資家がインパクトの測定・管理に活用できる実践的なデータ・指標の整備のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- ・「望ましいデータベースの基本的な考え方」に沿った[インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開](#)
- ・インパクト創出を意図する企業・投資家において[関心の高い3分野（※）の「インパクト指標集」・「事例集」の整理](#)
（※）環境・エネルギー、健康・ヘルスケア、インフラ・不動産

〔来期の方向性〕

- ・「インパクト指標集」の充実、[ロジックモデル構築に資する実証事業](#)、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に係る議論

2. 市場調査・形成分科会

テーマ：特に投資実務が定まっていないとされる上場企業へのインパクト投資手法のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- ・企業・投資家による[インパクト測定・管理](#)の活用事例の整理
- ・[企業の価値創造ストーリーへの統合](#)の事例と、企業・投資家双方が期待するインパクトの開示・対話の実践
- ・複雑な社会・環境課題を生み出している[システムの解決に向けたインベストメントチェーンの主体間の協働](#)のあり方の紹介

〔来期の方向性〕

- ・市場形成に向け、[インパクトの創出を長期的な価値創造に接続する企業戦略や資本市場の機能のあり方](#)について機関投資家や金融機関・企業等の各ステークホルダーの観点から議論する

3. 地域・実践分科会

テーマ：地域のインパクト企業・金融機関等のケーススタディやフィールドワークを通じた、地域におけるインパクト投資の機運醸成・裾野拡大のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- ・[地域におけるインパクト投資に係るファイナンス手法](#)の事例共有・議論
- ・地域でのインパクト投資事例をまとめた[事例集](#)の作成

〔来期の方向性〕

- ・[事例集の普及活動](#)を通じて、地域での事例拡大に取り組む
- ・より実践的な目線から[有用な事例を深掘り](#)する

4. 官民連携促進分科会

テーマ：地方自治体とインパクトスタートアップの連携による社会課題の解決の促進に向けた課題の構造化や課題解決の方向性と手法の検討

〔今期の成果物の内容〕

- ・自治体・スタートアップのほか、ファンドや中間支援団体を交えた[官民連携促進に向けた課題・解決策](#)等の整理
- ・「[実践ガイド](#)」の活用促進及び議論を踏まえた[一部改訂](#)

〔来期の方向性〕

- ・「実践ガイド」を活用した[自治体とスタートアップの連携事例創出](#)

分科会 1 データ・指標分科会（1 / 4）

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 第1・2期の議論・整理をふまえて、インパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者のインパクト創出を意図した事業計画策定プロセスへの支援として、インパクト指標集の充実やインパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築に資する実証事業、及び、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に係る議論を進める方向

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
- 副座長：みずほ証券株式会社 サステナビリティ推進部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 明治安田生命 青木 圭介
 - ・ C S Rデザイン環境投資顧問 大下 剛
 - ・ 野村證券 太田 洋子
 - ・ 農林中央金庫 岡本 純宜
 - ・ 日本P M I パートナース 川本 めぐみ
 - ・ ジェネシア・ベンチャーズ 公山 倫子
 - ・ 日清食品ホールディングス 斎藤 圭
 - ・ アサヒグループホールディングス 西原 香織
 - ・ J A 共済連 東 志行
 - ・ N T T ファシリティーズ 豆田 晃一
 - ・ A N A ホールディングス 南 尚樹
 - ・ 環境エネルギー投資 森江 久美子

活動と成果のイメージ

1

インパクト指標集 の質・量の充実

- より多くの事業者・投資家によるインパクト創出・投資に寄与するべく、第2期に提示したインパクト指標集【インフラ・不動産、環境・エネルギー、ヘルスケア・健康】における、収集分野・項目数の拡充や、利用に関するユーザビリティの向上を行う

2

ロジックモデル策定を支援 するための議論・整理、 及び、有効な手法の検討

- インパクト創出の担い手となる事業者・投資家のすそ野を拡大するとともに、IMMの初期プロセスで困難を感じる事業者へのサポートを行うべく、ロジックモデルの策定に資する実証事業を行うとともに、先行事業者によるIMMの考え方に関わる議論・整理や、モデル構築に関わる有効な手法を検討する

3

インパクトの可視化と 経済的価値の関連性 に係る議論・整理

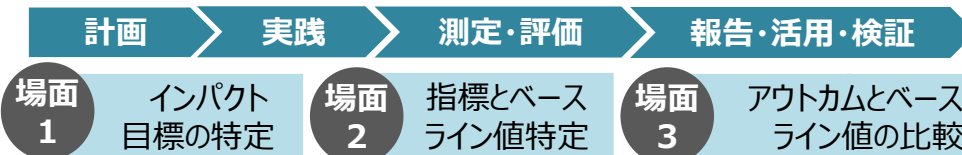
- 創出されたインパクトの可視化・評価を通じて、インパクトの創出がどのようにして経済的価値を向上させるドライバーとして位置付けることができるかに関するアプローチ・方法論について議論・整理

- 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2027年3月までに4回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- 別途、分科会と異なる形式で、新しい分野における先行事業者をプレゼンターとする会も予定

分科会 1 データ・指標分科会（3 / 4）第1・2期までの取組

- 第1期では、インパクト創出・拡大に向けては、インパクト指標・ベースライン値・活用事例等が必要であるとの認識から、各場面に応じた、**各種の代表的なデータベース情報を集約・整理**して提示。あわせて、企業・投資家等の**関心が高い課題分野を特定したうえで（インフラ、環境、ヘルスケア）**、今後、整備が求められる**データベースにおける基本的な考え方を整理**
- 第2期では、「望ましいデータベースの基本的な考え方」に沿って、**インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開**を行うとともに、**重点3分野の「インパクト指標集」を策定するとともに、活用の際に参考となる「事例集」を整備**することにより、インパクト創出の実践を下支えするとともに、将来的なインパクト目標・指標の検討時における基盤を提示

データ・指標を活用する主な場面を踏まえた既存データベースの整理



各種の代表的なデータベース情報を集約

19の指標例・ガイダンス等

22の統計・調査結果等

インパクト・データベース案内板（試行版）の実装

実装



各種指標・統計・調査結果

関係省庁発行のインパクト創出・投資に関する情報

インフラ・不動産

ヘルスケア・健康

企業・投資家等の関心が高い課題分野の特定

環境・エネルギー

ヘルスケア・健康

インフラ・不動産

望ましいデータベースの基本的な考え方（コンセプト）

1 「インパクトデータベースの案内板」としての役割

2 代表的な指標・ベースライン値・活用事例の整理

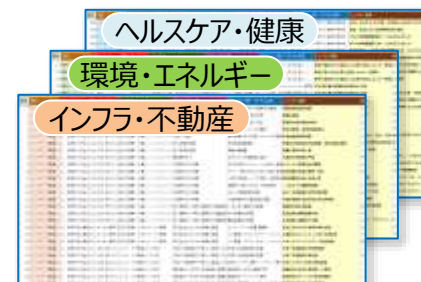
具体化

観点	日本の課題としての重要性
	国際的な整合性
	企業価値との関係性

データ・指標イメージ（指標集）の検討

インパクト指標集

DM事例集



2024（第1期）

2025（第2期）

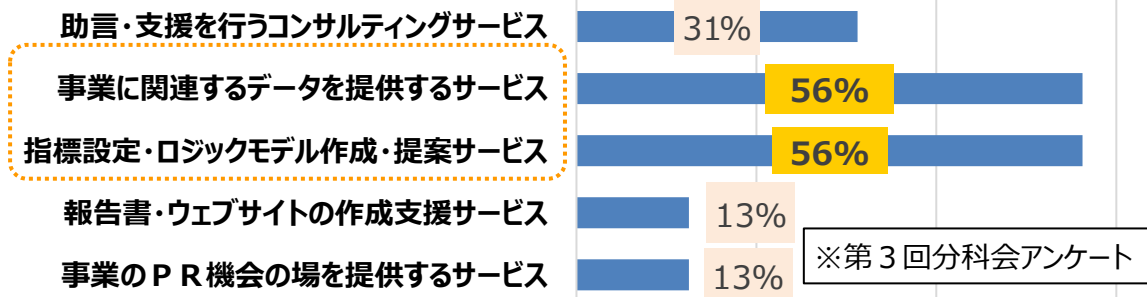
分科会 1 データ・指標分科会（4 / 4）第3期の方向性

- 分科会における議論のレベル感に対して、ESG業務に従事して1年未満の会員は「（とても）難しい」とする意見が66.7%に上っており、**インパクト創出のすそ野拡大に向けて、幅広い層が受容しうる議論の進行が必要**。また、事業者・投資家の多くは、データ提供・ロジックモデル作成等のPDCAにおける初期部分における作業に対しての支援を求めている状況
- これらを鑑みて、第3期ではインパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者の計画段階に対するプロセスへの支援として、**インパクト指標集の充実**や**インパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築**に資する議論・実証事業を進める方向

分科会における議論のレベル感

分科会の議論のレベル感 ※第2回分科会アンケート	とても簡単 ～簡単	適切	難しい～ とても難しい
会員回答	10.5%	68.4%	21.1%
うちESG従事1年未満	-	33.3%	66.7%

IMMの実践において望まれる外部サービス



第3期分科会において議論・整理したい分野



概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 第1期は、特にエクイティ投資の中でも上場株式に着目しつつ、未上場株式へのインパクト投資との接続の観点も踏まえて議論。第2期は、インパクト創出と投資収益の両立に向けた、IMMの観点でのインパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有等を実施。第3期では、**インパクトと企業価値の接続**をテーマに、**企業・投資家両サイドの先進事例の紹介や多様なステークホルダーを巻き込んだ議論**を行う。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：フロネシス・パートナーズ株式会社 顧問 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役 黄 春梅
- ディスカッションメンバー（16名）
 - ・ 野村アセットマネジメント株式会社 今村 敏之
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 大倉 彬
 - ・ 三菱UFJ信託銀行株式会社 加藤 正裕
 - ・ 合同会社 Co-Create Frontier 菊池 勝也
 - ・ 有限責任あずさ監査法人 坂井 知倫
 - ・ カディラキャピタルマネジメント株式会社 清水 裕
 - ・ 株式会社ユカリア 新村 和久
 - ・ Impact Frontiers 須藤 奈応
 - ・ 大和証券株式会社 芹沢 健自
 - ・ SISI Innovations株式会社 平 喜之
 - ・ 株式会社JEPLAN 高尾 正樹
 - ・ 株式会社かんぼ生命保険 野村 裕之
 - ・ GLIN Impact Capital 株式会社 秦 雅弘
 - ・ ニッセイアセットマネジメント株式会社 林 寿和
 - ・ 日本テレビホールディングス株式会社 福井 崇博
 - ・ キリンホールディングス株式会社 山田 幸司

分科会 2 市場調査・形成分科会（2 / 2）

第3期の活動イメージ

- インパクト投資市場のさらなる参加者の拡大に向け、**インパクトの創出を企業価値創造の観点で捉え、企業の経営判断や投資家の投資判断・価値評価にどのようにつなげるか**について議論する。
- 第2期において好評だったインパクトの開示に関する企業と投資家との対話デモの実施も予定。会員が実務において活用しやすいよう、議論の様子や具体的な事例のイメージが分かりやすいような形で資料をとりまとめる。
- 開催形式は原則オンライン（対話デモを行う際は対面とのハイブリッド）、1回につき2時間程度、2027年5月までに4回程度の開催を予定。
- 併せて、**データ・指標分科会と合同で分科会を開催**し、企業価値とインパクトの接続に資する指標・データの活用のあり方について議論。

1. 企業の実践紹介

2. 投資家の実践紹介

3. 多様なステークホルダーとの協働

4. 資本市場のデザイン

議論
概要

- インパクトと企業価値の接続に関する理論の解説
- IMMやインパクト創出を経営に組み込む企業の実践事例紹介

- インパクト投資の投資家の着眼点の解説
- インパクトを組み込んだ企業価値評価の実践事例紹介

- 国内外のシステムチェンジ投資の動向・事例紹介

- 企業のインパクトの開示を踏まえた、投資家との対話デモ
- インパクト開示・経営の充実に向けた資本市場の実践

① インパクトと企業経営・企業価値

① インパクトと企業経営・企業価値

① インパクトと企業経営・企業価値

① インパクトと企業経営・企業価値

② インパクトとデータ・指標との合同分科会も実施

② インパクトと金融・資本市場

② インパクトと金融・資本市場

② インパクトと金融・資本市場

③ システムチェンジ投資と市場形成

③ システムチェンジ投資と市場形成

③ システムチェンジ投資と市場形成

③ システムチェンジ投資と市場形成

④ インパクト資本市場のデザイン

④ インパクト資本市場のデザイン

④ インパクト資本市場のデザイン

④ インパクト資本市場のデザイン

● 企業の観点から、インパクトの創出が市場から評価されるために必要な開示や対話のあり方について議論する

● 投資家の観点から、インパクト企業の企業価値をどう評価するべきかについて検討する

● 国内外のシステムチェンジ投資の事例の研究を通して、多様なステークホルダーとの協働のあり方について議論する

● これらを踏まえ、インパクトと長期的な価値創造を資本市場が適切に認識・評価し、資本配分につなげるための開示・対話等のあり方について議論する。

今期の
主な議論

概要

- 第1期・第2期を通じ、地域でインパクトを意識する意義や、多様な地域事例に関する共通理解・知見の蓄積が進んだ。一方、実際に地域へ資金を呼び込み、地域の事業成長や課題解決につなげていくためには、地域・事業者・資金提供者それぞれの特性や企業の成長段階に応じた資金調達手法、案件形成、人材・ネットワーク、関係者間の連携など、実践上の課題が残されている。
- 多様な取組の浸透・拡大を図るため、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、社会・環境課題への対応の視点を取り入れた地域における価値創造等の取組が多岐にわたることの理解促進を図り、関心を喚起するような議論・発信を行い、地域におけるインパクト創出・投資に関する機運醸成やネットワーク構築の支援、それらを通じた地域への人材・資金の流れの強化といった地域における好循環の実現を目指す。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長 宜保 友理子
- 副座長 公益財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子
株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 吉江 到
- ディスカッションメンバー（10名）
 - ・ 京都信用金庫 石井 規雄
 - ・ 日本生命保険相互会社 景山 綾子
 - ・ 株式会社UNERI 河合 将樹
 - ・ 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
 - ・ 日本商工会議所 小林 美樹子
 - ・ 株式会社肥後銀行 坂口 尚
 - ・ カンダまちおこし株式会社 田代 達生
 - ・ 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 馬場 ちひろ
 - ・ ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗

年間計画のイメージ

第2期の成果

- 第2期では、**全国各地の地域課題解決に資するファイナンス事例を収集**し、社会課題、ファイナンス手法、企業の成長段階等の観点から体系化した「**事例集**」を作成した。
- あわせて、モデルケースについて、取組の背景、資金調達の工夫、関係者の役割、実践上の課題等を掘り下げて整理した。

第3期の方針

分科会

3~4回

- ✓ 第3期では、引き続き金融を軸としつつ、個別の地域事例の紹介にとどまらず、**地域固有の実践から他地域にも応用可能な成立条件・工夫・課題を抽出**する。あわせて、新たな地域金融・投資手法や関連する取組の動きも取り上げ、実践につながる知見として共有する。
 - 各回、ゲストスピーカー（2～3名）にプレゼンいただき、ディスカッションメンバー等による議論を行う。原則オンライン開催、2時間程度。

フィールドワーク・普及活動

1~2回

- ✓ **フィールドワークを実施**し、地域の事業者、金融機関、自治体、支援機関等へのヒアリングを通じて、分科会で得られた仮説や実践上の課題を検証する。
- ✓ 事例集や分科会成果の**普及・活用**を進めるとともに、利用者や地域関係者からの**フィードバックを収集**し、**事例集・成果物の継続的なアップデート**につなげる。



地域の実践から得られた知見を、他地域にも応用可能な「実践知」として整理・発信する

概要

- 社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論する。
- 行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在しており、こうした課題を構造化したうえで提示をし、課題解決の方向性と手法に係る議論を深めていく。
- 第1期は官民連携に資する実践方法・ノウハウ・事例等の情報を集約した「自治体と地域課題解決に取り組むスタートアップの官民連携に向けた実践ガイド」を作成し、第2期は最新事例等をもとに実践ガイドの更新を行った。第3期は、官民連携促進に資する制度の活用が進まない要因の検証やその改善に向けた議論を行うほか、官民連携の事例創出に向けた取り組みの支援等を行う。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：スタートアップ都市推進協議会 副会長 高島 宗一郎
一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：

※今期のテーマに沿って、自治体・スタートアップから新たに募集予定
(参考) 第2期コアメンバーの構成

- ・ 自治体 4団体
- ・ スタートアップ 3社

分科会 4 官民連携促進分科会（2 / 2）

第3期の方向性

- 第3期は、自治体のスタートアップからの調達拡大に資するよう、「4号随契（※）」の活用促進に取り組む。自治体へのヒアリング等を通して、制度の活用における課題等を検証し、課題の解決に向けた制度的な改善等について検討を行う。また、自治体における官民連携に向けた取組を支援し、創出された事例の横展開を行う「モデル事業」を経済産業省とともに実施することにより、官民連携の事例創出に取り組む。
- 第2期から引き続き、官民連携に係る「ヒトと情報が集まるプラットフォーム」としての情報集約・発信に取り組むとともに、上記検証により明確になった課題等を踏まえて、自治体・スタートアップそれぞれの意識醸成につながるよう、対話の機会創出等の取組を行うことを検討する。

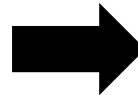
※自治体が地方自治法施行令第167条の2第1項第4号に基づき、新商品の買い入れ若しくは借入れ又は新役務の提供を受ける契約については随意契約により調達することができる制度

4号随契の活用促進

- 自治体・スタートアップへの制度に関する周知
- ヒアリング等による制度の活用における課題の検証
- 課題解決に向けた制度的な改善等に関する議論

自治体とスタートアップの連携・調達のためのモデル事業（経済産業省）

- 実践ガイドを活用し、自治体における官民連携・公共調達の事例創出を支援
- 自治体内の体制整備・原課の意識醸成等の環境づくりを支援
- 事例をモデル化し、他自治体への横展開を行う



情報集約・発信

- 官民連携の事例やノウハウについて情報収集し、分科会メンバーへ発信を行う

自治体・スタートアップの意識醸成等

- 4号随契の活用促進やモデル事業を通じて明らかになった課題等を踏まえて、双方の意識醸成のための対話の機会創出等を検討する

第3期の活動予定

分科会

モデル事業の成果報告会を兼ねて1回程度実施予定。加えて、自治体調達の促進に向けた課題等が明らかになった場合は、その解決に向けて分科会やコアメンバーによる議論を随時行う予定。

※開催形式は原則オンラインで1回につき1～2時間程度を想定（開催形式・回数は変更の可能性あり）

国際的な議論との連携、海外への発信について

- ❑ 国際的な動向や他国における先進事例に対する理解を深めるため、グローバルアドバイザリーパネル及びアドバイザリー委員会が中心となり、各分科会の活動における関連企画の組み込み、国内外のインパクト関連団体と連携したイベントの開催などに取り組む。
- ❑ 2026年6月9日に第2回グローバルアドバイザリーパネルを開催。海外有識者からグローバルレベルでの構造変革を目指す取組に関する先進事例の共有を受けるとともに、コンソーシアムの各分科会における動きを含めた国内におけるインパクトファイナンスの取組状況などを海外に発信し、海外有識者から国際的な動向を踏まえたフィードバックを得た。今期は、分科会との共同開催も視野に必要なに応じて検討する。

① 海外有識者からの知見共有、ネットワーキングの場の提供

- 各分科会の活動及びグローバルアドバイザリーパネルにおける海外事例の紹介、海外投資家の登壇
- SIMIやGIINなど、国内外のインパクト関連団体と連携した共催イベントの開催

国際動向を踏まえた、コンソーシアムにおける議論の発展

日本と海外のプレイヤーの協働による案件の創出

② 日本の取組の海外への発信

- グローバルアドバイザリーパネルにおける国内の取組状況の発信
- 各種メディアやイベント登壇等を通じた取組の紹介

インパクトファイナンスに関する国際的な議論への貢献

(参考) コンソーシアムの体制 (1 / 2)

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つを設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める。

総会

- ・ 事業方針と運営の基本的事項を決定
- ・ 役員（会長・副会長）の選任

運営委員会

- ・ 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- ・ その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

コンソーシアムの運営等に関する助言

グローバルアドバイザリーパネル

海外の有識者からの知見共有、日本の取組の対外発信等

オーガナイズングデスク

分科会等に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

分科会

- ・ 会員は各分科会への参加が可能。
- ・ 効果的な議論推進のため、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定。

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- ・ 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）

(参考) コンソーシアムの体制 (2 / 2)

※敬称略・五十音順

アドバイザー委員会

- 様々な専門分野の有識者によるコンソーシアムの運営等に関する助言を行う。

委員長：安間 匡明 PwC Japan合同会社 スペシャルアドバイザー

グローバルアドバイザーパネル

- グローバルな実務動向について知見を得つつ、本邦における活動の方向性について幅広い議論を行う。海外の機関等を都度若干名程度アドホックで招聘(オンラインを含む)し、本邦関係者と議論を行う。

パネルに招聘する団体等の例：国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (Co-Chairs, Global Advisory Panel Planning Committee)

- ・ UntroD Capital Japan株式会社 藤井 昭剛 ヴィルヘルム氏
- ・ GLIN Impact Capital 中村 将人氏

オーガナイズングデスク

GSG Impact JAPAN

- 分科会等に対し、国際的・専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

事務局 業務委託先

有限責任監査法人トーマツ

- 分科会を含むコンソーシアム全体について、会議運営、イベント運営、ホームページ作成等を担う

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 会員向けアンケート結果概要（別紙参照）

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

意見交換：インパクトコンソーシアムの今後の運営について

- 7ページの運営委員会や分科会、その他の会議体における第3期の進め方等について、どのように考えるか。
- その他自由討議